

授業科目名： 日本歴史文化学講義 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山（山口）聡子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：日本古代・中世における狐信仰について 目標：中国から日本へ何が受容され、日本でどのように変化したのかを理解できる。			
授業の概要 日本文化を理解する上で、中国文化の日本文化への影響を検討することは必須である。中国の狐狸について十分に研究した上で、日本における狐信仰や狐憑、狐使について検討していく。			
授業計画 第1回：はじめに一歴史学研究の意義と授業内容の説明 第2回：古代の貴族社会における病気 第3回：古代の貴族社会における病気治療 第4回：古代社会における狐 第5回：中国と日本における、狐に対する観念の相違 第6回：瘧病の原因としての狐 第7回：中世における狐と憑依 第8回：中世の貴族社会における病気 第9回：中世の貴族社会における病気治療 第10回：『看聞日記』に記録された怪異 第11回：『看聞日記』などに記録された狐使 第12回：足利義教周辺で起きた狐憑事件 第13回：『溪嵐拾葉集』に記された狐憑とその治療 第14回：狐の使役法 第15回：総括 定期試験は実施しない。			
テキスト なし。			
参考書・参考資料等 中村禎里『改訂新版 狐の日本史—古代・中世びとの祈りと呪術』戎光祥出版、2017			
学生に対する評価 期末レポート（90%）、討論（10%）			

授業科目名： 日本歴史文化学講義Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山（山口）聡子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：古代・中世における鬼について 到達目標：中国の鬼や仏教の鬼が、古代・中世の鬼にどのような影響を及ぼしたのかを理解し説明できる。古代から現代に至るまで、鬼はどのような意味をもたされたのかを説明できる。			
授業の概要 日本の歴史において、鬼がどのようなものとして捉えられてきたのかを、中国の鬼や仏教の鬼をふまえたうえで、古代・中世を中心に、通史で検討していく。			
授業計画 第1回：はじめに—授業内容の説明 第2回：中国の鬼 第3回：仏教の鬼 第4回：古代日本の歴史書に記された鬼 第5回：疫病をもたらす鬼とそれへの対処 第6回：忌夜行日への意識 第7回：鬼の住む場所 第8回：中世の日本地図に描かれた鬼ヶ島 第9回：豆まきのはじまり 第10回：女性と鬼 第11回：鬼退治の物語 第12回：近世における妖怪としての鬼 第13回：近代の大衆新聞でかたられた鬼 第14回：戦争と鬼 第15回：現代における鬼 定期試験は実施しない。			
テキスト 小山聡子『鬼と日本人の歴史』筑摩書房、2023年			
参考書・参考資料等 馬場あき子『鬼の研究』ちくま文庫、2019年。田中貴子『百鬼夜行の見える都市』ちくま学芸文庫、2002年			
学生に対する評価			

期末レポート (90%)、討論 (10%)

授業科目名： 日本歴史文化学講義Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大庭裕介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：土族反乱後の地域社会と政論</p> <p>到達目標は以下の通り。</p> <p>① 地域史料を検討し、当該地域特有の課題や問題意識を発見できる。</p> <p>② 日本近代史の全体像に当該地域の問題・課題を位置づけることができる。</p> <p>③ 民衆史・政治史双方の視座に立脚して当該地域の歴史史料を読みこむことができる。</p> <p>上記の3点を通じて日本近代史研究に必要な史料の読解力・問題意識の養成を図っていく。</p> <p>なお、①②は地域史的視点の養成と発展であるが、こうした研究力の養成を通じて高等学校「日本史探求」の授業構成に活かしてもらいたい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では国立国会図書館憲政資料室所蔵「佐々友房関係文書」収録の「西南戦争関係史料」「朝鮮関係史料」を輪読・検討していく。当該資料は熊本出身の衆議院議員であり、国権主義者であった佐々友房が遺した史料群である。本講義では九州の土族階級が唱えた征韓論が、どういったかたちで土族階級の利害を説くものであったのかを検討し、最後の土族反乱である西南戦争に至ったかを見ていく。</p> <p>なお、3回以降は演習形式で進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：先行研究の整理①：土族反乱の研究成果と問題点</p> <p>第2回：先行研究の整理②：征韓論研究の現状と課題</p> <p>第3回：三条実美宛佐々友房意見書を読む（征韓論）①（土族の社会思想と征韓論）</p> <p>第4回：三条実美宛佐々友房意見書を読む（征韓論）②（熊本県の情勢と征韓論）</p> <p>第5回：三条実美宛佐々友房意見書を読む（江華島事件）①（江華島事件の経緯と意義）</p> <p>第6回：三条実美宛佐々友房意見書を読む（江華島事件）②（江華島事件の影響）</p> <p>第7回：中間総括：3～6回授業のフィードバック／問題意識の検討</p> <p>第8回：時勢論を読む①（西南戦争）①（各地の土族反乱が及ぼした影響）</p> <p>第9回：時勢論を読む②（西南戦争）②（土族の社会認識と政治運動）</p> <p>第10回：時勢論を読む③（西南戦争）③（熊本県の地域問題と土族意識）</p> <p>第11回：時勢論を読む④（西南戦争）④（時勢論の内容まとめ）</p> <p>第12回：悪人感化論を読む①（西南戦争）⑤（西南戦争後の熊本県情勢）</p> <p>第13回：悪人感化論を読む②（西南戦争）⑥（西南戦争の鎮圧と土族意識の変容）</p>			

第14回：悪人感化論を読む③（西南戦争）⑦（悪人感化論の内容まとめ）

第15回：西南戦争史料と従来の研究との比較

定期試験は実施しない。

テキスト

第1回授業で資料配布予定。

参考書・参考資料等

大庭裕介「明治維新史研究における土族反乱研究のあゆみ」（『湘南工科大学紀要』59号、2025年）

大島明子『外征と公議』（有志舎、2024年）

今村直樹「明治零年代の土族反乱と旧藩主家・旧藩士族」（『日本史研究』731号、2023年）

学生に対する評価

レジュメ・報告内容（60%）／レポート（40%）

なお、フィードバックは毎回の授業で行うほか、全体を通したフィードバックは7・15回授業で行う。

授業科目名： 日本歴史文化学講義IV	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大庭裕介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：条約改正運動と地域社会</p> <p>到達目標は以下の通り。</p> <p>① 地域史料を検討し、当該地域特有の課題や問題意識を発見できる。</p> <p>② 日本近代史の全体像に当該地域の問題・課題を位置づけることができる。</p> <p>③ 条約改正運動を通して世界史・地域史を通覧することができる。</p> <p>上記の3点を通じて日本近代史研究に必要な史料の読解力・問題意識の養成を図っていく。</p> <p>なお、①②は地域史的視点・③は国際的視点の養成と発展であるが、こうした研究力の養成を通じて高等学校「日本史探求」「歴史総合」の授業構成に活かしてもらいたい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では国立国会図書館憲政資料室所蔵「佐々友房関係文書」収録の「条約改正関係史料」を輪読・検討していく。当該資料は熊本出身の衆議院議員であり、国権主義者であった佐々友房が遺した史料群である。本講義では条約改正が反政府運動・ナショナリズムと結びつき、世論の最大の関心事となった明治20年代の意見書を見ていく。本講義を通じて、明治中期のナショナリズム・対外認識が地域利害と結びついてどのように論じられていったかを明らかにしていきたい。</p> <p>なお、3回以降は演習形式で進めていく（※第8回は講義形式）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：先行研究の整理①：条約改正研究の現状</p> <p>第2回：先行研究の整理②：ナショナリズム研究の現状</p> <p>第3回：明治20年佐々友房意見書を読む（条約改正）①（明治20年の政局と佐々友房）</p> <p>第4回：明治20年佐々友房意見書を読む（条約改正）②（佐々友房の対外思想）</p> <p>第5回：明治20年佐々友房意見書を読む（条約改正）③（熊本県政界のなかでの佐々友房）</p> <p>第6回：明治20年佐々友房意見書を読む（条約改正）④（他の民権派との比較）</p> <p>第7回：中間総括：3～6回授業のフィードバック／問題意識の検討／明治20年の論点</p> <p>第8回：先行研究の整理③：帝国議会招集と条約改正交渉の推移</p> <p>第9回：明治22年佐々友房意見書を読む（条約改正）⑤（明治22年の政局と佐々友房）</p> <p>第10回：明治22年佐々友房意見書を読む（条約改正）⑥（条約改正交渉の過程の位置づけ）</p> <p>第11回：明治22年佐々友房意見書を読む（条約改正）⑦（対外硬派間の比較）</p> <p>第12回：明治22年佐々友房意見書を読む（条約改正）⑧（明治20年代の言論界と対外認識）</p>			

第13回：明治22年佐々友房意見書を読む（条約改正）⑨（熊本県政界と佐々友房）

第14回：明治22年佐々友房意見書を読む（条約改正）⑩（佐々友房の対外認識の特異性）

第15回：条約改正運動研究のなかでの本授業の位置づけ

定期試験は実施しない。

テキスト

第1回授業で資料配布予定。

参考書・参考資料等

五百旗頭薫『条約改正史』（有斐閣、2010年）

小宮一夫『条約改正と国内政治』（吉川弘文館、2001年）

学生に対する評価

レジュメ・報告内容（60%）／レポート（40%）

なお、フィードバックは毎回の授業で行うほか、全体を通したフィードバックは7・15回授業で行う。

授業科目名： 日本歴史文化学講義V	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋戦争の歴史を日本、アメリカ、グアムの三者の立場から捉え直す。 ・日本人、アメリカ人、グアム人の歴史認識の相違を浮き彫りにし、歴史と和解について考えるための材料と視点を提供する。 			
<p>授業の概要</p> <p>グアムは敵国によって占領された唯一のアメリカの領土であり、日本政府の絶対国防圏の最前線となったことで、日本軍の精鋭部隊が送られて「玉砕」した島である。日米決戦の舞台となった南の島の歴史と記憶を辿ることで、日本人、アメリカ人、グアム人双方の和解について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：太平洋戦争 第3回：真珠湾攻撃 第4回：グアム上陸作戦 第5回：大宮島 第6回：米軍の再上陸作戦 第7回：「玉砕」の島 第8回：米軍・島民の掃討作戦 第9回：横井庄一の戦争（日本降伏前） 第10回：横井庄一の戦争（日本降伏後） 第11回：横井庄一の戦争（戦後） 第12回：日本人の戦争の記憶 第13回：アメリカ人の戦争の記憶 第14回：グアム人の戦争の記憶 第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>山口誠『グアムと日本人』岩波書店</p>			

学生に対する評価

中間レポート (50%)、期末レポート (50%) によって評価する。

授業科目名： 日本歴史文化学講義VI	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋戦争の歴史を日本、アメリカ、フィリピンの三者の立場から捉え直す。 ・日本人、アメリカ人、フィリピン人の歴史認識の相違を浮き彫りにし、歴史と和解について考えるための材料と視点を提供する。 			
授業の概要			
<p>フィリピンはアメリカの植民地だったが、太平洋戦争のときに日本軍によって占領された。日米決戦の舞台となったことで、日本軍、アメリカ軍、フィリピン人いずれも夥しい犠牲者を出した。その歴史と記憶を辿ることで、日本人、アメリカ人、フィリピン人双方の和解について考える。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：太平洋戦争			
第3回：フィリピン占領			
第4回：ラウレル大統領			
第5回：マニラ市街戦			
第6回：フィリピン抑留			
第7回：米軍の裁き			
第8回：フィリピン政府の裁き			
第9回：小野田寛郎の戦争（日本降伏前）			
第10回：小野田寛郎の戦争（日本降伏後）			
第11回：小野田寛郎の戦争（戦後）			
第12回：日本人の戦争の記憶			
第13回：アメリカ人の戦争の記憶			
第14回：フィリピン人の戦争の記憶			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
授業時に資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
永井均『フィリピンBC級戦犯裁判』講談社			

学生に対する評価

中間レポート (50%)、期末レポート (50%) によって評価する。

授業科目名： 日本歴史文化学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山（山口）聡子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：日本古代・中世における狐信仰について			
目標：中国と日本の史料を十分に読解できる。歴史の中の狐信仰について明確に説明できる。			
授業の概要			
日本文化を理解する上で、中国文化の日本文化への影響を検討することは必須である。中国の狐狸について十分に研究した上で、日本における狐信仰や狐憑、狐使について、史料を読解しながら、検討していく。			
授業計画			
第1回：はじめに一歴史学研究の意義と授業内容の説明			
第2回：発表とディスカッション—『搜神記』に記された狐についての読解			
第3回：発表とディスカッション—『搜神記』に記された怪異についての読解			
第4回：発表とディスカッション—『太平広記』の狐部についての読解			
第5回：発表とディスカッション—『太平広記』の狐使についての読解			
第6回：発表とディスカッション—説話集に記された狐とモノノケに関する箇所読解			
第7回：発表とディスカッション—説話集に記された狐と病気に関する箇所読解			
第8回：発表とディスカッション—『看聞日記』に記された怪異に関する記事読解			
第9回：発表とディスカッション—『看聞日記』に記された狐に関する記事読解			
第10回：発表とディスカッション—足利義教の狐憑事件に関する史料読解			
第11回：発表とディスカッション—『溪嵐拾葉集』の狐に関する記事読解			
第12回：発表とディスカッション—狐と髪切り事件に関する古記録の記事読解			
第13回：発表とディスカッション—狐使に関する古記録の記事読解			
第14回：発表とディスカッション—狐と病気に関する古記録の記事読解			
第15回：総括			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
なし。			
参考書・参考資料等			
中村禎里『改訂新版 狐の日本史—古代・中世びとの祈りと呪術』戎光祥出版、2017			
学生に対する評価			
研究発表（90%）、討論（10%）			

授業科目名： 日本歴史文化学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山（山口）聡子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：古代・中世における鬼 到達目標：中国と日本の史料を十分に読解できる。歴史の中の鬼について明確に説明できる。			
授業の概要 日本文化を理解する上で、中国文化の日本文化への影響を検討することは必須である。中国の鬼について検討した上で、古代・中世における鬼について、史料を読解しながら、検討していく。			
授業計画 第1回：はじめに—授業内容の説明 第2回：発表とディスカッション—『論衡』に記された鬼に関する記事の読解 第3回：発表とディスカッション—『論衡』以外の中国の史料に記された鬼に関する記事の読解 第4回：発表とディスカッション—『貞観儀式』の追儺祭文の読解 第5回：発表とディスカッション—『地獄草紙』に描かれた鬼の分析 第6回：発表とディスカッション—鬼と餓鬼に関する分析 第7回：発表とディスカッション—『日本三代実録』の記事の読解と分析 第8回：発表とディスカッション—『口遊』に記された歌の読解と分析 第9回：発表とディスカッション—古記録に記された忌夜行日に関する読解と分析 第10回：発表とディスカッション—古記録に記された疫病治療に関する記事の読解と分析 第11回：発表とディスカッション—古記録に記された鬼子に関する記事の読解と分析 第12回：発表とディスカッション—鬼子と怪異に関する分析 第13回：発表とディスカッション—『保元物語』や『日本図』に記された鬼ヶ島に関する分析 第14回：発表とディスカッション—酒吞童子に関する分析 第15回：総括 定期試験は実施しない。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 小山聡子『鬼と日本人の歴史』筑摩書房、2023年			
学生に対する評価 研究発表（90%）、討論（10%）			

授業科目名： 日本歴史文化学演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大庭裕介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：明治初年における北海道の開拓政策と対露認識			
到達目標			
① 歴史的史料を読解する基本的なスキルを身につける（くずし字解読／史料文言／歴史的背景への理解）			
② 日本史の先行研究のなかで本史料の意義を見出して検討する知識を身につける（地域史・内国植民地研究）			
③ 世界史的観点から本史料の意義を見出して検討・紹介する知識を身につける（極東政策／対日外交）			
上記の3点を通じて歴史学研究に必要な基本的技能と視野の養成を図っていく。 また、上記③は高等学校「歴史総合」にも関連する視座であるため、とりわけ重点的な養成を企図している。			
授業の概要			
黎明館所蔵「黒田清隆関係文書」を教員も含む参加者全員で翻刻し、歴史的背景を読み解いていく。本年は黒田清隆が長官・次官を務めた北海道開拓使に関する史料を読み進める。当該時期（1870－1882）の北海道は、開拓地という意味合いに留まらず、ロシアの極東政策の最前線でもあった。そうしたことからロシアの極東政策がどういった推移を見せ、政府部内に認識されていったかを検討していく。			
授業計画			
第1回：歴史史料の概要と歴史的背景：外圧論／英露対立論の現在			
第2回：北海道開拓使関係史料の全体像と先行研究			
第3回：北海道開拓使関係史料の翻刻①（近世の蝦夷地の状況）			
第4回：北海道開拓使関係史料の翻刻②（場所請負制度から開拓政策へ）			
第5回：北海道開拓使関係史料の翻刻③（北海道開拓使の民族政策）			
第6回：北海道開拓使関係史料の翻刻④（北海道開拓使による地域統治）			
第7回：北海道開拓使関係史料の翻刻⑤（北海道開拓使政策の概要）			
第8回：翻刻史料を活用しての研究①：先行研究との関係性／明治政府の開拓政策の特質			
第9回：翻刻史料を活用しての研究②：学生グループAによる翻刻史料を用いた報告（史料紹介）			
第10回：翻刻史料を活用しての研究③：学生グループBによる翻刻史料を用いた報告（史料紹介）			
第11回：北海道開拓使関係史料の翻刻⑥（北海道開拓使の経済政策）			

第12回：北海道開拓使関係史料の翻刻⑦（北海道の変容）

第13回：北海道開拓使関係史料の翻刻⑧（アイヌ政策の総括）

第14回：北海道開拓使関係史料の翻刻⑨（史料の概要をまとめる）

第15回：授業の総括と発展：他の関係史料との関係性／翻刻を通して得た視点

定期試験は実施しない。

テキスト

第1回授業で配布し、当日に翻刻箇所を割り当てる。

参考書・参考資料等

門松秀樹『開拓使と幕臣』（慶応義塾大学出版会、2009年）

児玉幸多『くずし字解説辞典』（東京堂書店、1993年）

井黒弥太郎『黒田清隆』（吉川弘文館、1987年）

学生に対する評価

各回の翻刻レジュメと第9回・第10回の史料紹介によって評価を決める。

翻刻レジュメ（50%）＋史料紹介（50%）

なお、学生へのフィードバックは適宜授業中に行うこととする。

授業科目名： 日本歴史文化学演習IV	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大庭裕介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：明治初年における樺太政策と対露認識</p> <p>到達目標</p> <p>① 歴史的史料を読解する基本的なスキルを身につける（くずし字解読／史料文言／歴史的背景への理解）</p> <p>② 日本史の先行研究のなかで本史料の意義を見出して検討する知識を身につける（地域史・内国植民地研究）</p> <p>③ 世界史的観点から本史料の意義を見出して検討・紹介する知識を身につける（極東政策／対日外交）</p> <p>上記の3点を通じて歴史学研究に必要な基本的技能と視野の養成を図っていく。</p> <p>また、上記③は高等学校「歴史総合」にも関連する視座であるため、とりわけ重点的な養成を企図している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前期（日本歴史文化学演習Ⅲ）の内容を踏まえ、黎明館所蔵「黒田清隆関係文書」を教員も含む参加者全員で翻刻し、歴史的背景を読み解いていく。本演習では1870年から翌年にかけて政府部内に置かれた樺太開拓使に関する史料を読み進める。この時期の樺太は明確な国境線が引かれることがなく、日露雑居と呼ばれる状況であった。そうしたなかで、日露両国間においてどのような交渉や問題が生じていたかを見ていくことが本演習の目的である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：歴史史料の概要と歴史的背景：明治初年の樺太／関連の公文書／千島樺太交換条約の意義</p> <p>第2回：前期の振り返り：北海道開拓使の役割</p> <p>第3回：樺太開拓使関係史料の翻刻①（近世における樺太の情勢）</p> <p>第4回：樺太開拓使関係史料の翻刻②（ロシアの極東政策と東アジア情勢）</p> <p>第5回：樺太開拓使関係史料の翻刻③（日中露三国関係のなかでの樺太）</p> <p>第6回：樺太開拓使関係史料の翻刻④（樺太における地域問題）</p> <p>第7回：樺太開拓使関係史料の翻刻⑤（樺太における民族間紛争）</p> <p>第8回：翻刻史料を活用しての研究①：明治政府の樺太政策との関連／史料翻刻の前半総括</p> <p>第9回：翻刻史料を活用しての研究②：学生グループAによる翻刻史料を用いた報告（史料紹介）</p> <p>第10回：翻刻史料を活用しての研究③：学生グループBによる翻刻史料を用いた報告（史料紹介）</p> <p>第11回：樺太開拓使関係史料の翻刻⑥（樺太開拓使の政策）</p>			

第12回：樺太開拓使関係史料の翻刻⑦（樺太の経済）

第13回：樺太開拓使関係史料の翻刻⑧（樺太におけるアイヌ認識）

第14回：樺太開拓使関係史料の翻刻⑨（樺太開拓使の政策はなぜ挫折したか）

第15回：授業の総括と発展：北海道開拓使との関連／史料から見える諸問題

定期試験は実施しない。

テキスト

第1回授業で配布し、当日に翻刻箇所を割り当てる。

参考書・参考資料等

安岡昭男『明治前期大陸政策史の研究』（法政大学出版局、1998年）

児玉幸多『くずし字解説辞典』（東京堂書店、1993年）

井黒弥太郎『黒田清隆』（吉川弘文館、1987年）

学生に対する評価

各回の翻刻レジュメと第9回・第10回の史料紹介によって評価を決める。

翻刻レジュメ（50%）＋史料紹介（50%）

なお、学生へのフィードバックは適宜授業中に行うこととする。

授業科目名： 日本歴史文化学演習Ⅴ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日記を史料として批判的に読む方法を身につける。 ・ 軍人の書いた日記を通して日本人の戦争観の特徴を理解する。 			
授業の概要			
<p>日記は古来数多く書かれ、歴史史料として用いられてきたが、とくに近現代以降の学校教育、軍隊教育を通して増加し、書き手や文体が多様化した。そのなかで軍人の日記が占める割合は大きく、当時の日本人の戦争観を知る上で有意義であるため、兵士たちの日記を輪読する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：日記の読み方			
第3回：森下明有日記			
第4回：小林太郎日記			
第5回：佐藤富五郎日記			
第6回：小野盛日記の輪読（第1～7章）			
第7回：小野盛日記の輪読（第8～14章）			
第8回：小野盛日記の輪読（第15～17章）			
第9回：小野盛日記の輪読（第18～19章）			
第10回：小野盛日記の輪読（第20～21章）			
第11回：小野盛日記の輪読（第22～23章）			
第12回：小野盛日記の輪読（第24～26章）			
第13回：小野盛日記の輪読（第27～34章）			
第14回：小野盛日記の輪読（第35～41章）			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
小野盛著、林英一編・解説『インドネシア残留日本兵の社会史』龍溪書舎			
参考書・参考資料等			
田中祐介編『無数のひとりが紡ぐ歴史』文学通信			
学生に対する評価			
中間レポート（50%）、期末レポート（50%）によって評価する。			

授業科目名： 日本歴史文化学演習VI	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・口述資料を用いて歴史叙述する方法を身につける。 ・元残留日本兵のオーラルヒストリーを通して日本人の植民地経験、戦争経験を理解する。 			
授業の概要			
<p>オーラルヒストリーとは聞き取りによって得られた口述資料を用いた歴史叙述のことであり、日本では明治期から政治史を中心に行われてきた。戦後になると植民地や戦争体験のオーラルヒストリーが登場し、研究領域も拡大した。当時の日本人の植民地経験、戦争経験を知らるために、筆者がインドネシアで元残留日本兵に行った聞き取りを録画した映像を読み解く。</p>			
授業計画			
第 1回：ガイダンス			
第 2回：口述資料を作成する方法			
第 3回：口述資料の作成（映像1～30分）			
第 4回：口述資料の作成（映像30～60分）			
第 5回：口述資料の作成（映像60～90分）			
第 6回：口述資料の作成（映像90～120分）			
第 7回：口述資料の作成（映像120～150分）			
第 8回：中間まとめ			
第 9回：歴史を叙述する方法			
第10回：歴史叙述の作成（映像1～30分）			
第11回：歴史叙述の作成（映像30～60分）			
第12回：歴史叙述の作成（映像60～90分）			
第13回：歴史叙述の作成（映像90～120分）			
第14回：歴史叙述の作成（映像120～150分）			
第15回：期末まとめ			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
授業時に資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
保刈実『ラディカル・オーラル・ヒストリー』岩波書店			
学生に対する評価			

中間レポート (50%)、期末レポート (50%) によって評価する。

授業科目名： 東アジア歴史文化学講義 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・アジア・太平洋戦争後に東南アジア各地に取り残された日本人の抑留の歴史を明らかにし、歴史と和解について考えるための材料と視点を提供する。 ・遅れて帰還した日本人によって日本社会でどのような東南アジア観が広まったのかを考察する。 			
授業の概要 アジア・太平洋戦争後にソ連軍によってシベリアに連行された日本人が寒さ・飢え・重労働の歴史に比べてあまり知られていない東南アジアでの抑留の実態について検証する。また、東南アジアから日本に帰還した人びとの存在が、戦後の日本人の東南アジア観にいかなる影響を与えたのかを検討し、私たちの歴史認識を相対化する。			
授業計画 第 1回：ガイダンス 第 2回：アジア・太平洋戦争 第 3回：シベリア抑留 第 4回：インドネシア抑留 第 5回：インドネシア帰還 第 6回：シンガポール抑留 第 7回：シンガポール帰還 第 8回：ビルマ抑留 第 9回：ビルマ帰還 第10回：フィリピン抑留 第11回：フィリピン帰還 第12回：ラバウル抑留 第13回：ラバウル帰還 第14回：日本人の東南アジアイメージ 第15回：まとめ 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業時に資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

増田弘『南方からの帰還』慶應義塾大学出版会

学生に対する評価

中間レポート（50%）、期末レポート（50%）によって評価する。

授業科目名： 東アジア歴史文化学講義Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア・太平洋戦争の戦後処理を起点とする戦後日本と東南アジアの関係史を概観する。 ・日本とインドネシアの特殊関係を通じて開発と援助について考える材料と視点を提供する。 			
<p>授業の概要</p> <p>アジア・太平洋戦争の戦後処理からはじまった戦後日本と東南アジアの関係史を概観する。そのなかでも戦争中は支配-被支配関係にあった日本とインドネシアが、戦後に特殊関係と称されるほど緊密化し、援助-被援助関係として再編される過程を通じて、日本による開発援助の成果と課題を考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：サンフランシスコ講和会議</p> <p>第3回：東南アジア賠償・準賠償</p> <p>第4回：バンドゥン会議</p> <p>第5回：インドネシア賠償</p> <p>第6回：賠償留学生</p> <p>第7回：アセアン</p> <p>第8回：政府開発援助</p> <p>第9回：反日暴動（バンコク）</p> <p>第10回：反日暴動（ジャカルタ）</p> <p>第11回：福田ドクトリン</p> <p>第12回：環境問題</p> <p>第13回：地震と津波</p> <p>第14回：経済連携協定</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中野亜里・遠藤聡・小高泰・玉置充子・増原綾子『入門 東南アジア現代政治史〔改訂版〕』福村出版</p>			

学生に対する評価

中間レポート (50%)、期末レポート (50%) によって評価する。

授業科目名： 東アジア歴史文化学講義Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 王 宝平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【テーマ】中国人が日本人の著書のために書いた序文を通して、漢字文化圏における日中学術交流の特色を再認識する。</p> <p>【到達目標】（１）日本漢文学に対する新たな視点を共有し、西洋と異なる、漢字文化圏の知識人の学術交流の伝統を再確認する。（２）資料読解能力の向上を図る。</p>			
授業の概要 具体的な作品を通して、入元僧・入明僧と中国人との文化交流の様子を把握する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：元代以前の序文交流</p> <p>第3回：入元僧について</p> <p>第4回：入元僧と中国人との交流</p> <p>第5回：入元僧がもたらしてきた語録</p> <p>第6回：入明僧がもたらしてきた「日本国建仁禅寺月篷見禅師塔銘」</p> <p>第7回：入明僧がもたらしてきた「日本国天竜禅寺開山夢窓正覚心宗普济国師碑銘」</p> <p>第8回：入明僧がもたらしてきた「義堂和尚空華集序」</p> <p>第9回：入明僧がもたらしてきた「汝霖文稿跋」</p> <p>第10回：入明僧がもたらしてきた「絶海和尚語録序」</p> <p>第11回：入明僧がもたらしてきた「絶海和尚蕉堅稿序」</p> <p>第12回：入明僧がもたらしてきた「絶海和尚蕉堅稿跋」</p> <p>第13回：室町時代臨濟宗の僧瑞溪周鳳がもたらしてきた語録</p>			

第14回：瑞溪周鳳がもたらしてきた序跋

第15回：総合討論

定期試験

テキスト その都度、資料配布

参考書・参考資料等 木宮泰彦『日華文化交流史』富山房、1972年

学生に対する評価

定期テスト（50%）、授業時の課題への取り組み状況等（50%）により、総合的に判定する

授業科目名： 東アジア歴史文化学講義Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 王 宝平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 中国人が日本人の著書のために書いた序文を通して、漢字文化圏における日中学術交流の特色を再認識する。			
【到達目標】 (1) 日本漢文学に対する新たな視点を共有し、西洋と異なる、漢字文化圏の知識人の学術交流の伝統を再確認する。(2) 資料読解能力の向上を図る。			
授業の概要 通年の授業を通して、中国人が日本人の著書のために書いた序文の歴史を概観する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：「舜水先生文集」の中の序文			
第3回：明の禅僧心越が書いた序文			
第4回：明の文人陳元賛が書いた序文			
第5回：黄檗宗の来舶僧－隠元が書いた序文			
第6回：黄檗宗の来舶僧－木庵・即非が書いた序文			
第7回：黄檗宗の来舶僧－戴曼公（独立性易）が書いた序文			
第8回：清の画家沈南蘋が書いた序文			
第9回：来舶四大家－伊孚九、張秋谷が書いた序文			
第10回：来舶四大家－費晴湖、江稼圃が書いた序文			
第11回：長崎に来舶した清人画家江芸閣が書いた序文			
第12回：長崎に来舶した船主朱柳橋が書いた序文			
第13回：『古梅園墨譜』（前編）における序文			
第14回：『古梅園墨譜』（後編）における序文			
第15回：総合討論			
定期試験			
テキスト その都度、資料配布			
参考書・参考資料等 唐権・劉建輝・王紫沁「来舶清人研究ノート」：附「来舶清人参考文献」「来舶清人一覧表」、国際日本文化研究センター『日本研究』62、131-172、2021年3月			
学生に対する評価			
定期テスト（50%）、授業時の課題への取り組み状況等（50%）により、総合的に判定する。			

授業科目名： 東アジア歴史文化学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アジア・太平洋戦争後に東南アジア各地に取り残された日本人の日記と回想記を読み解きながら、史料を批判的に読む方法を身につける。 ・ 抑留された日本人の視点から戦争中の日本の東南アジア占領を相対化する。 			
<p>授業の概要</p> <p>アジア・太平洋戦争後に東南アジア各地に抑留された日本人の日記と回想録を読み解くことで、史料批判の方法を身につける。また、現地での抑留経験が当事者たちにどのような自己変容をもたらしていたのかの検討を通じて、日本の東南アジア占領の意味について再考する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1回：ガイダンス</p> <p>第 2回：アジア・太平洋戦争</p> <p>第 3回：東南アジア占領</p> <p>第 4回：ジャワ占領</p> <p>第 5回：ジャワ抑留</p> <p>第 6回：マレー・シンガポール占領</p> <p>第 7回：レンパン抑留</p> <p>第 8回：ビルマ占領</p> <p>第 9回：ビルマ抑留</p> <p>第10回：フィリピン占領</p> <p>第11回：フィリピン抑留</p> <p>第12回：ラバウル占領</p> <p>第13回：ラバウル抑留</p> <p>第14回：歴史と対話</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>増田弘『南方からの帰還』慶應義塾大学出版会</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

中間レポート (50%)、期末レポート (50%) によって評価する。

授業科目名： 東アジア歴史文化学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開発独裁の体制維持のために歴史と記憶がどのように用いられてきたのかを明らかにする。 ・ インドネシアにおける大量虐殺の歴史と記憶を通して、歴史と和解について考える材料と視点を提供する。 			
<p>授業の概要</p> <p>アジア・太平洋戦争後に日本が去った後の東南アジアでは開発独裁政権が誕生した。その過程でインドネシアでは政変と大量虐殺が起り、その歴史と記憶は学校教育やメディアを通して体制維持のために利用されてきた。インドネシア最大の歴史認識問題から加害者側と被害者側に分断された社会における和解について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1回：ガイダンス</p> <p>第 2回：開発と独裁</p> <p>第 3回：オランダ植民地</p> <p>第 4回：日本占領</p> <p>第 5回：革命</p> <p>第 6回：議会制民主主義</p> <p>第 7回：スカルノ体制と日本</p> <p>第 8回：9・30事件</p> <p>第 9回：大量虐殺</p> <p>第10回：加害者</p> <p>第11回：被害者</p> <p>第12回：スハルト体制と日本</p> <p>第13回：民主化</p> <p>第14回：歴史と和解</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>ジョシュア・オッペンハイマー監督映画「アクト・オブ・キリング」、「ルック・オブ・サイレ</p>			

ンス」

学生に対する評価

中間レポート（50%）、期末レポート（50%）によって評価する。

授業科目名： 東アジア歴史文化学演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 王 宝平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 中国人が日本人の著書に書いた序文を通して明治時代の日中学術交流の盛況を再現する。 【到達目標】 草書を読む能力、文献整理や読解の能力、問題解決能力の向上をめざす。			
授業の概要			
明治時代、中国文化人は数百冊にわたる日本人の著作のために序文・跋文を寄せた。それは漢字文化圏における未曾有のことで、日中学術交流の特色として注目の的となっている。本授業は、主に清国から来日した民間文化人（漢語教師・民間文化人・書画家）が書いた序文・跋文を読解する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス (授業の進め方、文献整理法の解説)			
第2回：漢語教師による序跋（1） 三木貞一著、此中生評『東都仙洞余譚』（九春社、1883年）関桂林序			
第3回：漢語教師による序跋（2） 三木愛花（貞一）著『情天比翼縁』（九春社、1884年）関桂林序			
第4回：漢語教師による序跋（3） 本荘一行編『近世名家遊記文鈔』（浅井吉兵衛、1881）汪松坪序			
第5回：漢語教師による序跋（4） 中島氏彬編『皇朝名家文範』（岡田茂兵衛、1881年）葉松石序、識語			
第6回：漢語教師による序跋（5） 菊池三九郎『漢文綱要』（東京専門学校出版部、1901年）金国璞序			
第7回：民間文化人による序跋（1） 下渡辺蘭谷（徹鑿）『遠明堂詩鈔』（渡辺蘭谷、1891年）陳鴻誥跋			
第8回：民間文化人による序跋（2） 森川鍵雲『得閑集』（鷗夢吟社、1891年）張滋昉序			
第9回：民間文化人による序跋（3） 高井伴寛『三音四聲字貫』（山中市兵衛、1878年）何如璋序、王治本序、王藩清書			
第10回：民間文化人による序跋（4） 長三洲『韻華帖』（児玉少介、1878年）王治本序、王琴仙序、王寅序、胡震跋、黄遵憲序			
第11回：民間文化人による序跋（5） 加藤熙『衆教論略』（桜陰社、1878年）王治本跋・序、沈文熒序、王藩清序			

第12回：民間文化人による序跋（6）

仁禮敬之『北清見聞録』（亜細亜協会、1888年）張滋昉序

第13回：民間文化人による序跋（7）

岡千仞『觀光紀遊』（明治二十五年）王韜序、張煥倫序、陸純甫序

第14回：民間文化人による序跋（8）

渡邊約郎『唐話為文箋』（正栄堂、1879年）王治本序

第15回：総合討論

定期試験

テキスト その都度、資料配布

参考書・参考資料等

王宝平編著『日本典籍清人序跋集』上海辞書出版社、2010年

学生に対する評価

定期テスト（50%）、授業時の課題への取り組み状況等（50%）により、総合的に判定する

授業科目名： 東アジア歴史文化学演習Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 王 宝平
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】 中国人が日本人の著書に書いた序文を通して明治時代の日中学術交流の盛況を再現する。 【到達目標】 草書を読む能力、文献整理や読解の能力、問題解決能力の向上をめざす。			
授業の概要			
明治時代、中国文化人は数百冊にわたる日本人の著作のために序文・跋文を寄せた。それは漢字文化圏における未曾有のことで、日中学術交流の特色として注目の的となっている。本授業は、春学期に続いて、主に清国の外交官・官僚たちが書いた序文・跋文を読解する。			
授業計画			
第1回：外交官による序跋（1） 東条耕『先哲叢談續編』（千鍾房、1883年）楊守敬序並書			
第2回：外交官による序跋（2） 重野成斎『成齋文集』（富山房、1898年）黎庶昌序			
第3回：外交官による序跋（3） 中村敬宇『敬宇文集』（吉川弘文館、1903年）黎庶昌序、傅雲龍序			
第4回：外交官による序跋（4） 羽山尚徳『国史評林』（清風閣、1878年）沈文熒序			
第5回：外交官による序跋（5） 藤野正啓『海南遺稿附海南手記』（藤野漸、1891年）黎庶昌序、徐致遠序、孫黈跋			
第6回：外交官による序跋（6） 藤川忠猷『春秋大義』（吉川半七、1883年）黃遵憲序			
第7回：外交官による序跋（7） 石川鴻斎『鴻斎文鈔』（山中市兵衛、1882年）何如璋序、沈文熒序、王治本後序			
第8回：外交官による序跋（8） 石川鴻斎『纂評箋注蒙求校本』（山中市兵衛、1879年）何如璋、黃遵憲、沈文熒序			
第9回：外交官による序跋（9） 生田精『畿道巡迴日記附雜事』（生田精、1881年）黃遵憲序			
第10回：官僚による序跋（1） 野口愛編『如蘭帖 前集』（奎文堂、1880年）李鴻章など序			
第11回：官僚による序跋（2） 高島嘉右衛門編『清国大家書集』（高島嘉右衛門、1902年）榮祿など題辞			

第12回：官僚による序跋（3）

御幡雅文『華語跬步』（文求堂、1903年）端方序

第13回：官僚による序跋（4）

永井久一郎『西遊詩續稿』（来青閣、1902年）文廷式序

第14回：官僚による序跋（5）

永井久一郎『西遊詩稿附声応気求集』（印書公会、1898年）姚文藻序、洪述祖題辞

第15回：総合討論

定期試験

テキストテキスト その都度、資料配布

参考書・参考資料等 王宝平編著『日本典籍清人序跋集』上海辞書出版社、2010年

学生に対する評価

定期テスト（50%）、授業時の課題への取り組み状況等（50%）により、総合的に判定する

授業科目名： 西洋歴史文化学講義 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村啓介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：近代ヨーロッパ外交秩序の展開史—欧日交流を遠望して—</p> <p>既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させ、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。以上の作業をつうじて、日本と西洋世界の関係史をグローバルな視野で理解するとともに、通説を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力を強化し、歴史研究をつうじて異文化理解のための学的態度をはぐくむ。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、「西洋歴史文化学演習 I」と連動しつつ、欧米諸国が日本という異文化と遭遇し、関係を構築していく歴史展開を理解するための歴史的前提をめぐる主要問題について基礎的考察をおこなう。そのために、ウェストファリア体制以後のヨーロッパ外交秩序の展開史を追いつつ、各国の外交制度・外交政策の変遷とその特質にアプローチする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（講義のねらい、学修内容の全体像提示）</p> <p>【思考準備】外交とは何か／対外進出の歴史的前提</p> <p>第2回：【概論1】外交制度の成立—ウェストファリア体制からヴェルサイユ体制へ—</p> <p>第3回：【概論2】異文化経験としての日欧関係—大航海時代から明治維新时期まで</p> <p>第4回：ウェストファリア体制（1）—諸国家体系の発展—</p> <p>第5回：ウェストファリア体制（2）—ハプスブルク帝国とフランス王国—</p> <p>第6回：ウィーン体制（1）—大国主義と勢力均衡主義—</p> <p>第7回：ウィーン体制（2）—外交制度の発展—</p> <p>第8回：中間まとめ—小括と復習、次回以降のための準備的考察—</p> <p>第9回：革命とウィーン体制の崩壊</p> <p>第10回：外交関係の制度的基礎（1）—在外公館・外交代表の誕生—</p> <p>第11回：外交関係の制度的基礎（2）—ウィーン会議と外交規則—</p> <p>第12回：ヨーロッパ外交の基調（1）—ビスマルク体制—</p> <p>第13回：ヨーロッパ外交の基調（2）—会議外交の展開—</p> <p>第14回：ヴェルサイユ体制の成立</p> <p>第15回：講義全体の総括、重要事項の再確認、期末レポート作成レクチャー</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			

テキスト

使用する文献テキストは授業にて配布する。

参考書・参考資料等

M. S. Anderson, *The Rise of Modern Diplomacy 1450-1919*, Longman Pub Group, 1993 ; K. Hamilton & R. Langhorne, *The Practice of Diplomacy : Its Evolution, Theory and Administration*, Oxon: Routledge, 1995 ; É. Schnakenbourg & F. Ternat (dir.), *Une diplomatie des lointains : La France face à la mondialisation des rivalités internationales, XVIIe - XVIIIe siècle*, Presses Universitaires de Rennes, 2020. その他、授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート60%、平素の学習態度40%により総合的に評価する。

授業科目名： 西洋歴史文化学講義Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村啓介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：近代ヨーロッパ・アメリカのアジア進出と異文化理解</p> <p>欧米諸国が日本という異文化と遭遇し、関係を構築していく歴史の展開を理解する。また、欧米列強による異文化経験の具体例をつうじて、異文化への理解や異文化間の交渉についての諸相を考究しつつ、異文化や他者への理解を深める。これにより、既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。以上をもって、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。</p>			
授業の概要			
<p>「西洋歴史文化学講義Ⅰ」での学修内容をふまえ、かつ「西洋歴史文化学演習Ⅱ」と連動しつつ、大航海時代以降の欧米列強による対外進出、とりわけ1840年のアヘン戦争を皮切りとする欧米列強の東アジア進出を考察対象とする。とりわけ、1858年の修好通商条約（安政の五カ国条約）により日本との外交関係を樹立した欧米列強の対日外交やその国内事情については、幕末開国史や明治維新にいたる国内の政争などに関する日本史研究にくらべ、その具体的事情があまり知られていない。</p> <p>そこで本講義では、欧米列強の中で活発にアジア進出を果たした英米仏の動向を概観し、かつ各国の外交制度・外交政策の変遷とその特質にアプローチする。そのために、第一に外交の最前線たる現地外交官が直接的に未知の異文化と対峙し、とくに外交関係を開拓すべき初期局面ではきわめて重要な役割をになうことになった点を重視し、外交官たちによる情報入手などの任務遂行にかかわる諸問題を検討する。第二に、ヨーロッパ情勢との連関を視野にいれつつ英米仏間の比較をおこない、アジア進出における欧米列強の歴史的特質について考究する。以上によって、当該期欧米列強の異文化理解にみる歴史的特質に迫る。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（講義のねらい、学修内容の全体像提示）			
【思考準備】〈欧米列強の極東接近と幕末「開国」史〉研究事始め			
第2回：【概論】異文化経験としての日欧外交			
第3回：ヨーロッパ人の日本認識（1）—キリスト教宣教師による布教期—			
第4回：ヨーロッパ人の日本認識（2）—「鎖国」期のオランダ人—			
第5回：欧米列強と日本情報（1）—世界図にみる日本認識の史的変容—			
第6回：欧米列強と日本情報（2）—19世紀ばの国際外交環境—			
第7回：欧米列強と日本情報（3）—ペリー来航、その他のヨーロッパ列強—			

第8回：中間まとめ 一小括と復習，次回以降のための準備的考察—
第9回：「安政の五か国条約」をめぐる欧米列強の動向（1）—対日外交関係の成立—
第10回：「安政の五か国条約」をめぐる欧米列強の動向（2）—日米・日英条約をよむ—
第11回：安政の五か国条約をめぐる欧米列強の動向（3）—日仏条約をよむ—
第12回：【読解実習】異文化理解と欧米語の翻訳問題（1）—日米・日英条約—
第13回：【読解実習】異文化理解と欧米語の翻訳問題（2）—日仏条約—
第14回：【読解実習】異文化理解と欧米語の翻訳問題（3）—その他の対欧条約—
第15回：講義全体の総括、重要事項の再確認、期末レポート作成レクチャー
定期試験は実施しない。

テキスト

使用する文献テキストは授業にて配布する。

参考書・参考資料等

É. Schnakenbourg & F. Ternat (dir.), *Une diplomatie des lointains : La France face à la mondialisation des rivalités internationales, XVIIe - XVIIIe siècle*, Presses Universitaires de Rennes, 2020. その他、授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート60%、平素の学習態度40%により総合的に評価する。

授業科目名： 西洋歴史文化学講義Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村啓介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：(西洋近代政治史) 近代フランスにおけるボナパルティスム</p> <p>国民の支持に基礎をおく政治体制とその思想であるボナパルティスムに着目した近代フランス政治史の検討をつうじて、(1) 現代の理解に不可欠な歴史的考察力を養い、かつ創造的議論の構築力を鍛錬するために、史実吟味、研究書の批判的読解、史料論・方法論の検討といった歴史学の基礎的作業に触れ、(2) みずからの研究テーマに即した観点や方法論などに関する視野を広げ、(3) 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。以上をもって、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。</p>			
授業の概要			
<p>フランス史の展開を考察するうえで、「パリ中心史観」から脱却するとともに、地域社会(ローカルレベル)の歴史的役割をより正確に把握することはきわめて重要である。本授業では、ボナパルティスムという政治思想ないしその体制の問題を検討するにあたり、近代フランスの国家と地域社会の関係性にも焦点をあてつつ、地域の視点にやや比重をおきながら、中央権力と地域権力の関係という現代にも通ずる諸問題を史的にかつ多角的に考察する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス(講義のねらい、学修内容の全体像提示)			
第2回：【通説整理】ナポレオン体制論—マルクス主義史観から名望家論へ—			
第3回：政治思想潮流としてのボナパルティスム			
第4回：ナポレオン1世の帝制(1)—統領制から帝制へ：帝制樹立の論理—			
第5回：ナポレオン1世の帝制(2)—『セントヘレナ回想録』—			
第6回：19世紀前半期のボナパルティスム(1)—「ナポレオン伝説」—			
第7回：19世紀前半期のボナパルティスム(2)—ボナパルト一族の動向—			
第8回：中間まとめ—小括と復習、次回以降のための準備的考察—			
第9回：19世紀前半期のボナパルティスム(3)—ルイ=ナポレオンの台頭—			
第10回：ナポレオン3世の帝制(1)—初期の著述活動—			
第11回：ナポレオン3世の帝制(2)—帝制復活の論理—			
第12回：ナポレオン3世の帝制(3)—中央・地方関係—			
第13回：ボナパルティスムと地域社会(1)—1851年12月2日クーデタをめぐる地域の動向—			
第14回：ボナパルティスムの地域社会(2)—人民投票と地方有権者—			

第15回：講義全体の総括、重要事項の再確認、期末レポート作成レクチャー

定期試験は実施しない。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

受講にあたり、あらかじめ次の概説書を読み歴史の全体像を把握しておくこと。

- ・ 大下尚一・西川正雄・服部春彦・望田幸男（編）『西洋の歴史〔近現代編〕』ミネルヴァ書房（1987年）
- ・ 遠藤輝明（編）『地域と国家—フランス・レジヨナリズムの研究—』日本経済評論社（1992年）
- ・ 柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦（編）『世界歴史体系・フランス史』山川出版社、第2、3巻（1995 - 96年）
- ・ 小田中直樹『フランス近代社会 1814-1852—秩序と統治—』木鐸社（1995年）
- ・ 福井憲彦『ヨーロッパ近代の社会史』岩波書店（2005年）

その他、授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート60%、平素の学習態度40%により総合的に評価する。

授業科目名： 西洋歴史文化学講義Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村啓介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：ヨーロッパワイン文化と近代日本の交感</p> <p>主として19世紀以降の欧米列強によるアジア・日本進出とその歴史的影響に関して、ワイン文化の視点から欧日の異文化間関係を歴史的に考究することによって、歴史的アプローチに関する知見を深める。もって、(1)現代の理解に不可欠な歴史的考察力を養い、かつ創造的議論の構築力を鍛錬するために、史実吟味、研究書の批判的読解、史料論・方法論の検討といった歴史学の基礎的作業に触れ、(2)みずからの研究テーマに即した観点や方法論などに関する視野を広げ、(3)既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。以上をもって、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ヨーロッパは、他のさまざまな分野と同様にワイン文化の面でも日本に大きな影響を与えてきた。ワインは、16世紀後半までにはヨーロッパからもたらされ、とりわけ江戸時代にはオランダによって輸入され、将軍や諸大名などにも献上された。明治期になると、フランスで学んだワイン醸造技術をもとに、国産ワイン産業の基礎が築かれることとなる。</p> <p>そこで、本講義では、(1)まず江戸時代までの日本のワイン経験、および明治以降の国産ワイン産業の展開を概観し、ついで(2)現代ワイン世界の主要理念となり、日本酒業界にも影響を与えつつある「テロワール」論に注目しつつ、そこにみるワインづくりの思想を明らかにし、もって(3)EUワイン法の中核をなす原産地統制呼称制度および地理的名称(GI)制度へといったプロセスを検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（講義のねらい、学修内容の全体像提示）</p> <p>第2回：【課題探求1】食文化史のなかのワイン</p> <p>第3回：【課題探求2】現代ワイン法にみる歴史性</p> <p>第4回：日本のワイン経験（1）—江戸時代まで—</p> <p>第5回：日本のワイン経験（2）—明治時代—</p> <p>第6回：日本ワイン産業の展開（1）—明治時代～第二次世界大戦—</p> <p>第7回：日本ワイン産業の展開（2）—第二次世界大戦後—</p> <p>第8回：中間まとめ—小括と復習、次回以降のための準備的考察—</p>			

第9回：ヨーロッパ・ワイン法前史（1）—古代～中世初期—
第10回：ヨーロッパ・ワイン法前史（2）—中世盛期～近世—
第11回：ヨーロッパ・ワイン法前史（3）—近代市民社会とワイン文化—
第12回：ヨーロッパ・ワイン法の成立（1）—フランスAOC法—
第13回：ヨーロッパ・ワイン法の成立（2）—EUワイン法—
第14回：ワイン文化のグローバル化—日本への影響—
第15回：講義全体の総括（ワイン生産と「テロワール」の思想—日本版ワイン法のゆくえ—）
重要事項の再確認、期末レポート作成レクチャー
定期試験は実施しない。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

受講にあたり、あらかじめ次の概説書を読み歴史の全体像を把握しておくこと。

- ・ ジルベール・ガリエ著，八木尚子訳『ワインの文化史』筑摩書房（2004年）
- ・ 山本博他『世界のワイン法』日本評論社（2009年）
- ・ 麻井宇介『日本のワイン・誕生と揺籃時代 本邦葡萄酒産業史論攷』日本経済評論社（2003年）
- ・ 野村啓介『ヨーロッパワイン文化史』東北大学出版会（2019年）

その他、授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート60%、平素の学習態度40%により総合的に評価する。

授業科目名： 西洋歴史文化学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村啓介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：近代ヨーロッパ外交秩序の展開史—欧日交流史研究を遠望して—</p> <p>何よりもまず、欧米言語による一次史料・研究論文等の読解力を向上させることが最大の目標である。「西洋歴史文化学講義 I」での学修をふまえて、第一線で活躍する歴史研究者の論考を英仏原書の地道な読解作業と史料に関する討論をつうじて、既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させ、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。もって、日本と西洋世界の関係史をグローバルな視野で理解するとともに、通説を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力を強化し、歴史研究をつうじて異文化理解のための学的態度をはぐくむ。</p>			
授業の概要			
<p>歴史研究書を読む場合、それがどのような一次史料にもとづいて議論を展開しているのかということには常に注意を払う必要がある。本演習では、実証性の高い研究書を英仏原書で読むことをつうじて、当該期の近代ヨーロッパ外交秩序展開史についての知識を増やすとともに、史料分析やそれにもとづく歴史記述などの“歴史の作法”に習熟する。テーマは「西洋歴史文化学講義 I」と対応する課題群であり、これと連動しつつ、英仏文献による議論の角度から欧米諸国が日本という異文化と遭遇し、関係を構築していく歴史の展開を理解するための歴史的前提をめぐる主要問題（ウェストファリア体制以後のヨーロッパ外交秩序の展開史、および主要各国の外交制度・外交政策の変遷とその特質）である。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（講義のねらい、学修内容の全体像提示）；授業進行について</p> <p>第2回：【思考準備】欧米列強の海外進出（1）—大航海時代から第一次世界大戦まで—</p> <p>第3回：【思考準備】欧米列強の海外進出（2）—史的背景としての欧米国際関係—</p> <p>第4回：ウェストファリア体制に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明</p> <p>第5回：ウェストファリア体制に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明</p> <p>第6回：ウェストファリア体制に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明</p> <p>第7回：ウィーン体制に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明</p> <p>第8回：ウィーン体制に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明</p> <p>第9回：ウィーン体制に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明</p> <p>第10回：植民地政策に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明</p>			

第11回：植民地政策に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明

第12回：植民地政策に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明

第13回：「旧外交」から「新外交」への移行に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明

第14回：「旧外交」から「新外交」への移行に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明

第15回：「旧外交」から「新外交」への移行に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明

全体の総括、重要事項の再確認、期末レポート作成レクチャー

定期試験は実施しない。

テキスト

M. S. Anderson, *The Rise of Modern Diplomacy 1450-1919*, Longman Pub Group, 1993. (外交体制、「旧外交」・「新外交」について参照)

É. Schnakenbourg & F. Ternat (dir.), *Une diplomatie des lointains : La France face à la mondialisation des rivalités internationales, XVIIe - XVIIIe siècle*, Presses Universitaires de Rennes, 2020. (植民地政策について参照)

参考書・参考資料等

授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート50%、平素の学習態度50%により総合的に評価する。

授業科目名： 西洋歴史文化学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村啓介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：近代ヨーロッパ・アメリカのアジア進出と異文化理解（資料読解）</p> <p>—「西洋歴史文化学講義Ⅱ」と連動—</p> <p>第一線で活躍する歴史研究者の論考を英仏原書の地道な読解作業と史料に関する討論をつうじて、欧米諸国が日本という異文化と遭遇し、関係を構築していく歴史の展開を理解する。また、欧米列強による異文化経験の具体例をつうじて、異文化への理解や異文化間の交渉についての諸相を考究しつつ、異文化や他者への理解を深める。これにより、既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。以上をもって大学院での研究を推進するための基礎力をつける。</p>			
授業の概要			
<p>「西洋歴史文化学講義Ⅰ」での学修内容をふまえつつ、大航海時代以降の欧米列強による対外進出、とりわけ 1840 年のアヘン戦争を皮切りとする欧米列強の東アジア進出を考察対象に地道なテキスト読解をおこなう。とりわけ、欧米列強の中で活発にアジア進出を果たした英米仏の動向を概観し、かつ各国の外交制度・外交政策の変遷とその特質にアプローチする。そのために、第一に外交の最前線たる現地外交官が直接的に未知の異文化と対峙し、とくに外交関係を開拓すべき初期局面ではきわめて重要な役割をになうことになった点を重視し、外交官たちによる情報入手などの任務遂行にかかわる諸問題を検討する。第二に、ヨーロッパ情勢との連関を視野にいれつつ英米仏間の比較をおこない、アジア進出における欧米列強の歴史的特質について考究する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（講義のねらい、学修内容の全体像提示）；授業進行について</p> <p>第2回：【思考準備】ヨーロッパ外交秩序に関する主要概念整理（「西洋歴史文化学演習Ⅰ」の復習をかねて）</p> <p>第3回：【思考準備】条約体制の成立・展開に関する概説—外交代表の異文化経験を中心に—</p> <p>第4回：欧米列強のアジア進出に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明</p> <p>第5回：欧米列強のアジア進出に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明</p> <p>第6回：欧米列強のアジア進出に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明</p> <p>第7回：英外交制度・外交官に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明</p> <p>第8回：英外交制度・外交官に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明</p>			

第9回：英外交制度・外交代表に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明
第10回：米外交制度・外交代表に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明
第11回：米外交制度・外交代表に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明
第12回：米外交制度・外交代表に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明
第13回：仏外交制度・外交代表に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明
第14回：仏外交制度・外交代表に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明
第15回：仏外交制度・外交代表に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明
全体の総括、重要事項の再確認、期末レポート作成レクチャー

定期試験は実施しない。

テキスト

É. Schnakenbourg & F. Ternat (dir.), *Une diplomatie des lointains : La France face à la mondialisation des rivalités internationales, XVIIe - XVIIIe siècle*, Presses Universitaires de Rennes, 2020.

参考書・参考資料等

桑名映子（編著）『文化外交の世界』山川出版社（2023年）、野村啓介（編著）『西洋へのまなざし／日本へのまなざし—日欧文化関係史への招待—』ミネルヴァ書房（2025年）、その他授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート50%、平素の学習態度50%により総合的に評価する。

授業科目名： 西洋歴史文化学演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村啓介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：近代フランスにおけるボナパルティズムの史的展開</p> <p>国民の支持に基礎をおく政治体制とその思想であるボナパルティズムに着目した近代フランス政治史の検討をつうじて、(1) 現代の理解に不可欠な歴史的考察力を養い、かつ創造的議論の構築力を鍛錬するために、史実吟味、研究書の批判的読解、史料論・方法論の検討といった歴史学の基礎的作業に触れ、(2) みずからの研究テーマに即した観点や方法論などに関する視野を広げ、(3) 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。以上をもって、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。</p>			
授業の概要			
<p>フランス史の展開を考察するうえで、「パリ中心史観」から脱却するとともに、地域社会（ローカルレベル）の歴史的役割をより正確に把握することはきわめて重要である。本授業では、「西洋歴史文化学講義Ⅲ」と連動しつつ、第一線で活躍する歴史研究者の論考を英仏原書の地道な読解作業と史料に関する討論をつうじて、ボナパルティズムという政治思想ないしその体制の問題を検討する。その際、近代フランスの国家と地域社会の関係性にも焦点をあてつつ、地域の視点にやや比重をおきながら、中央権力と地域権力の間をめぐる諸問題を史的にかつ多角的に考察する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（講義のねらい、学修内容の全体像提示）；授業進行について			
第2回：【思考準備】「ボナパルティズム」をめぐる研究史			
第3回：【思考準備】日本におけるボナパルティズム論の受容			
第4回：ナポレオン支配期（1799-1815）の政治思想に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明			
第5回：ナポレオン支配期（1799-1815）の政治思想に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明			
第6回：ナポレオン支配期（1799-1815）の政治思想に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明			
第7回：立憲王政期（1815-1848）のボナパルティズムに関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明			
第8回：立憲王政期（1815-1848）のボナパルティズムに関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明			

よる補足説明

第9回：立憲王政期（1815-1848）のボナパルティスムに関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明

第10回：ルイ＝ナポレオン台頭期（1848-1870）のボナパルティスムに関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明

第11回：ルイ＝ナポレオン台頭期（1848-1870）のボナパルティスムに関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明

第12回：ルイ＝ナポレオン台頭期（1848-1870）のボナパルティスムに関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明

第13回：第三共和制期のボナパルティスムに関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明

第14回：第三共和制期のボナパルティスムに関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明

第15回：第三共和制期のボナパルティスムに関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明、全体の総括、重要事項の再確認、期末レポート作成レクチャー
定期試験は実施しない。

テキスト

J. Rothney, *Bonapartism After Sedan*, Cornell University Press, 1969. (フランス第三共和制期のボナパルティスムについて参照)

F. Bruche, *Le bonapartisme, aux origines de la droite autoritaire (1800-1850)*, Paris: Nouvelles Éditions Latines, 1980. (ナポレオン1世期からナポレオン3世期のボナパルティスムについて参照)

参考書・参考資料等

受講にあたり、あらかじめ次の概説書を読み歴史の全体像を把握しておくこと。

- ・大下尚一・西川正雄・服部春彦・望田幸男（編）『西洋の歴史〔近現代編〕』ミネルヴァ書房（1987年）
- ・遠藤輝明（編）『地域と国家—フランス・レジオナリズムの研究—』（日本経済評論社 1992年）
- ・柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦（編）『世界歴史体系・フランス史』山川出版社、第2、3巻（1995 - 96年）
- ・小田中直樹『フランス近代社会 1814-1852—秩序と統治—』木鐸社（1995年）
- ・野村啓介『フランス第二帝制の構造』九州大学出版会（2002年）
- ・野村啓介『ナポレオン四代—二人のフランス皇帝と悲運の後継者たち—』中央公論新社（2019年）
- ・福井憲彦『ヨーロッパ近代の社会史』（岩波書店 2005年）

その他、授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート50%、平素の学習態度50%により総合的に評価する。

授業科目名： 西洋歴史文化学演習Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野村啓介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：ヨーロッパワイン文化と近代日本の交感―「西洋歴史文化学講義Ⅳ」と連動―</p> <p>主として19世紀以降の欧米列強によるアジア・日本進出とその歴史的影響をふまえつつ、ワイン文化の視点から欧日の異文化間関係を歴史学的に考究することによって、歴史学的アプローチに関する知見を深める。(1) 現代の理解に不可欠な歴史的考察力を養い、かつ創造的議論の構築力を鍛錬するために、史実吟味、研究書の批判的読解、史料論・方法論の検討といった歴史学の基礎的作業に触れ、(2) みずからの研究テーマに即した観点や方法論などに関する視野を広げ、(3) 既存の歴史観を相対化し、自由な観点から考察できるような歴史的考察力と、異文化・他者を理解しようとする学的態度とをさらに向上させる。以上をもって、大学院での研究を推進するための基礎力をつける。</p>			
授業の概要			
<p>ヨーロッパは、他のさまざまな分野と同様にワイン文化の面でも日本に大きな影響を与えてきた。ワインは、16世紀後半までにはヨーロッパからもたらされ、とりわけ江戸時代にはオランダによって輸入され、将軍や諸大名などにも献上された。明治期になると、フランスで学んだワイン醸造技術をもとに、国産ワイン産業の基礎が築かれることとなる。</p> <p>そこで本演習では、「西洋歴史文化講義Ⅳ」での学修をふまえつつ、第一線で活躍する歴史研究者の論考を英仏原書の地道な読解作業と史料に関する討論をつうじて、(1) 江戸時代までの日本のワイン経験、および明治以降の国産ワイン産業の展開を概観し、ついで(2) 現代ワイン世界の主要理念となり、日本酒業界にも影響を与えつつある「テロワール」論に注目しつつ、そこにみるワインづくりの思想を明らかにし、もって(3) EUワイン法の中核をなす原産地統制呼称制度および地理的名称(GI)制度へといたるプロセスを検討する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（講義のねらい、学修内容の全体像提示）；授業進行について			
第2回：【思考準備】現代ワイン法における原産地統制呼称AOC			
第3回：【思考準備】「テロワール」論の問題性、日本ワインの史的展開概観			
第4回：テロワール概念に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明			
第5回：テロワール概念に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明			
第6回：テロワール概念に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明			
第7回：フランスAOC法読解（学生A～C）および教員による補足説明			
第8回：フランスAOC法読解（学生D～F）および教員による補足説明			

第9回：フランスAOC法読解（学生G～I）および教員による補足説明

第10回：フランスAOC立法化に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明

第11回：フランスAOC立法化に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明

第12回：フランスAOC立法化に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明

第13回：EUワイン法・GI制度に関する論考読解（学生A～C）および教員による補足説明

第14回：EUワイン法・GI制度に関する論考読解（学生D～F）および教員による補足説明

第15回：EUワイン法・GI制度に関する論考読解（学生G～I）および教員による補足説明

全体の総括、重要事項の再確認、期末レポート作成レクチャー

定期試験は実施しない。

テキスト

S. Wolikow et O. Jacquet, *Territoires et terroirs du vin du XVIIIe au XXIe siècles: Approche internationale d'une construction historique*, Éditions Universitaires de Dijon, 2011. (テロワール概念、AOC 法制化、ワイン法についての論考)

J. Capus, *L'évolution de la législation sur les appellations d'origine: Genèse des appellations contrôlées*, Mare & Martin, 2019. (フランス AOC の思想についての論考)

参考書・参考資料等

受講にあたり、あらかじめ次の概説書を読み歴史の全体像を把握しておくこと。

- ・ ジルベール・ガリエ著，八木尚子訳『ワインの文化史』筑摩書房（2004年）
- ・ 山本博他『世界のワイン法』日本評論社（2009年）
- ・ 野村啓介『ヨーロッパワイン文化史』東北大学出版会（2019年）

その他、授業において適宜紹介する。

学生に対する評価

期末レポート50%、平素の学習態度50%により総合的に評価する。

授業科目名： 日本文化史特殊講義Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 麻生 将
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：無教会主義キリスト教の思想とその特徴</p> <p>目標：本講義では内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教を事例に、思想とそれを取り巻く文化、社会、政治、経済との相互関係について歴史学的な観点から考察する。</p>			
授業の概要			
<p>内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教は、近代の日本において成立した宗教思想であり、宗教運動であった。また、無教会主義キリスト教は雑誌というメディアによって成立した新しい宗教的コミュニティでもあり、内村自身も「紙上の教会」と呼んでいた。さらに、内村鑑三とその弟子たちのキリスト教思想はナショナリズムや国際情勢との関わりの中で形成されていったことも指摘されている。この講義では、近代の日本社会における政治、経済、文化、社会、メディア、ナショナリズム、更には国際情勢など様々な要素に影響されながら成立してきた無教会主義キリスト教の思想的な特徴について、前半では内村鑑三の著作や雑誌の記事を、後半では内村鑑三の弟子が著した記事を取りあげる。その際、内村鑑三とその弟子たちの人間関係や、彼らを取り巻く政治的、経済的、社会的、文化的な背景に着目する。</p> <p>テキストはPDFファイルまたはコピーを事前に配布するので、当該授業までに読んでいることを前提にディスカッションと解説を行う。なお、授業計画や内容は変更することもある。</p>			
授業計画			
第1回：はじめに一授業の進め方			
第2回：内村鑑三の生涯と思想形成			
第3回：無教会主義キリスト教の成立			
第4回：内村鑑三『基督信徒の慰め』に見る無教会主義キリスト教とその特徴			
第5回：内村鑑三の日本の天職論とナショナリズム			
第6回：内村鑑三の世界観と日本観			
第7回：内村鑑三の国土認識とナショナリズム			
第8回：内村鑑三の「日本的キリスト教」と無教会主義キリスト教			
第9回：内村鑑三の天皇観と無教会主義キリスト教			
第10回：内村鑑三の弟子による無教会主義キリスト教 (1) 塚本虎二と黒崎幸吉			
第11回：内村鑑三の弟子による無教会主義キリスト教 (2) 石原兵永と政池仁			
第12回：内村鑑三の弟子による無教会主義キリスト教 (3) 矢内原忠雄			
第13回：内村鑑三の弟子による無教会主義キリスト教 (4) 斎藤宗次郎			

第14回：内村鑑三の弟子による無教会主義キリスト教（5）弟子たちの世界観とナショナリズム

第15回：授業の総括

定期試験は実施しない。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

- ・赤江達也『「紙上の教会」と日本近代——無教会キリスト教の歴史社会学』岩波書店、2013
- ・岩野祐介『無教会としての教会 内村鑑三における「個人・信仰共同体・社会」』教文館、2013
- ・藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々（上）敗戦の神義論』木鐸社、1977
- ・藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々（下）十五年戦争と無教会二代目』木鐸社、1977

学生に対する評価

授業への参加度（30%）、授業内課題・コメントカード・小レポート等への取り組み状況（30%）、期末レポート（40%）により総合的に判定する。

授業科目名： 日本文化史特殊講義Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 麻生 将
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：無教会主義キリスト教における平和思想と戦争</p> <p>目標：本講義では内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教における平和思想の形成と変遷について概観する。具体的には内村鑑三の存命中に起きた日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦という三つの戦争に対する内村の言動とそこから読み取れる平和思想や戦争観、世界情勢の認識の特徴とその変遷を歴史学的な観点から考察する。そして、こうした平和思想の背景にある政治的、文化的、社会的背景を考察する。</p>			
授業の概要			
<p>内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教は、近代の日本において成立した宗教思想であり、宗教運動であった。無教会主義キリスト教の主要な特徴の一つに非戦論が挙げられるが、内村鑑三は当初から非戦主義者であったわけではない。無教会主義の思想を確立する過程で義戦論から非戦論へと「転向」し、その非戦論の内容も20世紀前半において変化した。本講義の前半では、その変化の背景を内村のテキストを中心に読み解いていく。また、講義の後半では、弟子たちが内村の非戦論の思想をどのように受容し、満州事変や日中戦争、太平洋戦争といった一連の戦争に対して如何に向き合い、それぞれの平和論を打ち立てつつ、行動していったのか、について弟子たちのテキストを講読しながら考察する。その際、内村鑑三とその弟子たちの人間関係や、近代日本のキリスト教を取り巻く政治的、経済的、社会的、文化的な背景に着目する。</p> <p>テキストはPDFファイルまたはコピーを事前に配布するので、当該授業までに読んでいることを前提にディスカッションと解説を行う。なお、授業計画や内容は変更することもある。</p>			
授業計画			
第 1回：はじめに—授業の進め方			
第 2回：内村鑑三と無教会主義キリスト教			
第 3回：内村鑑三の歴史観・国家観・戦争観			
第 4回：内村鑑三の戦争観と平和主義 (1) 日清戦争と義戦論			
第 5回：内村鑑三の戦争観と平和主義 (2) 日清戦争から日露戦争へ			
第 6回：内村鑑三の戦争観と平和主義 (3) 日露戦争と花巻非戦論事件			
第 7回：内村鑑三の戦争観と平和主義 (4) 日露戦争時の非戦論			
第 8回：内村鑑三の戦争観と平和主義 (5) 「非戦主義者の戦死」における非戦論の到達点			
第 9回：内村鑑三の戦争観と平和主義 (6) 第一次世界大戦と非戦論			

第10回：内村鑑三の戦争観と平和主義（7）アメリカの参戦・再臨運動・非戦論

第11回：内村鑑三の弟子の戦争観と平和主義（1）政池仁の平和論

第12回：内村鑑三の弟子の戦争観と平和主義（2）政池仁と黒崎幸吉の論争

第13回：内村鑑三の弟子の戦争観と平和主義（3）斎藤宗次郎の大東亜戦争観

第14回：内村鑑三の弟子の戦争観と平和主義（4）戦後の無教会主義者による総括と評価

第15回：授業の総括

定期試験は実施しない。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

- ・藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々（上）敗戦の神義論』木鐸社、1977
- ・藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々（下）十五年戦争と無教会二代目』木鐸社、1977
- ・宮田光雄『平和の思想史的研究』創文社、1978

学生に対する評価

授業への参加度（30%）、授業内課題・コメントカード・小レポート等への取り組み状況（30%）、期末レポート（40%）により総合的に判定する。

授業科目名： 日本芸能史講義Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中川 桂
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 歌舞伎を中心とする江戸期の文献を講読し、関連する講談・落語等の話芸にも触れる。文献読解力を身に着け、江戸期の芸能・文化への理解を深める。			
授業の概要 主に『紙屑籠』を講読し、内容を理解するとともに文中で扱われる芸能作品に触れる。			
授業計画 第1回：講読文献の概要、作者について 第2回：江戸の歌舞伎・浄瑠璃史概説 第3回：江戸大芝居と三座 第4回：半太夫節など音曲 第5回：「助六」の始まり 第6回：女方舞踊 第7回：主な江戸役者 第8回：上方唄と上方落語 第9回：役者絵と絵看板 第10回：「仮名手本忠臣蔵」と話芸 第11回：講談「赤穂義士伝」 第12回：「忠臣蔵」五段目と斧定九郎 第13回：落語「五段目」「中村仲蔵」 第14回：大道具・小道具の種類 第15回：猿若の謡いもの			
定期試験			
テキスト 三升屋二三治『紙屑籠』（『続燕石十種』第3巻）			
参考書・参考資料等 今岡謙太郎『日本古典芸能史』武蔵野美術大学出版局			
学生に対する評価 期末レポート試験（80%）、授業時の報告（20%）			

授業科目名： 日本芸能史講義Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中川 桂
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 歌舞伎を中心とする江戸期の文献を講読し、関連する講談・落語などの話芸にも触れる。文献読解力を身に付け、江戸期の芸能・文化への理解を深める。			
授業の概要 主に『紙屑籠』を講読し、内容を理解するとともに文中で扱われる芸能作品に触れる。			
授業計画 第1回：『紙屑籠』前半の内容の確認 第2回：浄瑠璃書の論 第3回：「忠臣蔵」大序と俄芝居 第4回：芝居小屋と地口行燈 第5回：中村富十郎の舞踊 第6回：「京鹿子娘道成寺」と上方落語「浮かれの屑選り」 第7回：「天竺徳兵衛」と江戸落語 第8回：ケレン演出 第9回：鼠木戸、小屋の構造 第10回：「幡随院長兵衛」と講談 第11回：囃子、鳴物 第12回：本水芝居と「鯉つかみ」 第13回：義太夫狂言 第14回：仕切場など興行関係 第15回：「山門五三桐」			
定期試験			
テキスト 三升屋二三治『紙屑籠』（『続燕石十種』第3巻）			
参考書・参考資料等 今岡謙太郎『日本古典芸能史』武蔵野美術大学出版局			
学生に対する評価 期末レポート試験（80%）、授業時の報告（20%）			

授業科目名： 日本史料学講義 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小森正明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>日本史研究を行ううえで必要となる素材（資史料）を、日本史料学の名称のもとに論ずる。特に本講義では、古文書を取りあげる。古文書の内容や機能はもとより、その素材である紙・墨・筆跡などの外形的観点からも検討し、読解はもとより実際の調査方法などもあわせて学ぶ。本講義の到達目標は、古文書の翻刻や解釈のみならず、モノとしての古文書の扱いや調査方法も習得することにある。</p>			
授業の概要			
<p>学部で履修した古文書学入門の知識を基礎とし、実際に多様なジャンル（公式様・公家様・武家様ほか、公家文書・寺社文書・武家文書・地下文書）の古文書の様式論などを深く掘り下げて、古文書の果たした機能について、外形的な側面も含め複製や写真などを通じて理解を深めるための講義を行う。特に、古代～中世の古文書を中心とする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：はじめに ー日本史料学と古文書についてー</p> <p>第2回：古文書の内容的見方と外形的見方と調査法</p> <p>第3回：公式様文書の特質（詔書・勅旨ほか）</p> <p>第4回：公式様文書の特質（符・ほか）</p> <p>第5回：公家様文書の特質（宣旨・官宣旨ほか）</p> <p>第6回：公家様文書の特質（庁宣・綸旨・院宣ほか）</p> <p>第7回：武家様文書の特質（下文・下知状ほか）</p> <p>第8回：武家様文書の特質（御教書・奉書ほか）</p> <p>第9回：上申文書の特質（解状・請文ほか）</p> <p>第10回：上申文書の特質（起請文・着到状ほか）</p> <p>第11回：証書類・書状類の特質（譲状・売券・書状ほか）</p> <p>第12回：古文書の料紙と墨</p> <p>第13回：花押と印章</p> <p>第14回：紙背文書の世界</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			
授業時に資料を配布する。			

参考書・参考資料等

日本歴史学会編『概説 古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）、佐藤進一著『新版 古文書学入門』（法政大学出版会）、児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、2022年）、苅米一志著『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

学生に対する評価

レポート(50%)・授業時の発言(30%)、その他の課題等への取り組み(20%)などで判定。

授業科目名： 日本史料学講義Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小森正明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>日本史研究を行ううえで必要となる素材（資史料）を、日本史料学の名称のもとに論ずる。特に本講義では、古記録（日記）をとりあげる。古記録は、古文書とならぶ史料で、古くは平安時代の貴族の残したものがあり、平安貴族社会解明の基礎的史料として活用されている。以降日本社会においては様々な階層による日記が残されてきた。本講義の到達目標は、平安時代～室町時代にかけての皇族・貴族の日記読解を通じ、古記録を素材として、歴史像構築のためスキルを身に着けるとともに、同Ⅰでの履修を通じて古記録・古文書双方の活用を図る方法論の習得である。</p>			
授業の概要			
<p>日本史研究に必要な古記録読解のための基礎的知識の習得と、それらを活用した古記録の具体的な特質の理解と読解法とを学ぶ。関係する参考書およびデータベースの活用法や、それらを駆使した読解技術の習得や歴史像構築について、具体的な記事に即して行うとともに、古記録の形態として用いられた卷子本の取り扱いなどや、その調査方法についても学ぶ。</p>			
授業計画			
第 1回：はじめに 一日記とは何か			
第 2回：平安時代～室町時代の日記概説			
第 3回：日記読解のための基礎知識(具注暦・時刻制度ほか)			
第 4回：日記読解のための基礎知識(参考書・データベースの利用法)			
第 5回：卷子本等の取り扱いと調査方法			
第 6回：平安時代の日記の特質(『御堂関白記』)			
第 7回：平安時代の日記の特質(『小右記』)			
第 8回：平安時代の日記の特質(『中右記』)			
第 9回：鎌倉時代の日記の特質(『玉葉』)			
第10回：鎌倉時代の日記の特質(『明月記』)			
第11回：南北朝時代の日記の特質(『花園院宸記』)			
第12回：南北朝時代の日記の特質(『看聞日記』)			
第13回：室町時代の日記の特質(『建内記』)			
第14回：室町時代の日記の特質(『政基公旅引付』)			
第15回：まとめ			
定期試験は実施しない。			

テキスト

授業時に資料を配布する。

参考書・参考資料等

斎木一馬著『古記録学概論』（吉川弘文館、1990年）、高橋秀樹著『古記録入門（増補改訂版）』（吉川弘文館、2023年）、苅米一志著『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）

学生に対する評価

レポート(50%)・授業時の発言(30%)、その他の課題等への取り組み(20%)などで判定。

授業科目名： 日本文化史特殊演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 麻生 将
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：テキストから読み解く無教会主義キリスト教と文化・社会との関係</p> <p>目標：本授業ではテキストや一次史料の読解を通じて、無教会主義キリスト教と同時代の様々な文化あるいは社会的な事象との関係について分析と考察を行うスキルを修得する。</p>			
授業の概要			
<p>内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教は、近代の日本において成立した宗教思想であり、宗教運動であった。また、無教会主義キリスト教は同時代の様々な人々に受容されるとともに、多様な文化や社会的な事象との関係性を有していた。この授業では、近代の日本社会における政治、経済、文化、社会、メディア、ナショナリズム、更には国際情勢など様々な要素に影響されながら成立してきた無教会主義キリスト教と同時代の様々な文化や社会的な事象との関係について、内村鑑三や彼の弟子たちのテキスト（書籍や雑誌の記事など）の読解と分析、考察を行い、発表する。テキストはPDFファイルまたはコピーを事前に配布するので、当該授業までに読んでいることを前提にディスカッションと解説を行う。なお、授業計画や内容は変更することもある。</p>			
授業計画			
第 1回：はじめに—授業の進め方と無教会主義キリスト教の概要の説明			
第 2回：無教会主義キリスト教関係のテキストの解説と発表順の決定			
第 3回：発表とディスカッション (1) 有島武郎「札幌独立教会 (一)」と無教会			
第 4回：発表とディスカッション (2) 有島武郎「札幌独立教会 (二)」におけるキリスト教思想			
第 5回：発表とディスカッション (3) 有島武郎「札幌独立教会 (完)」と有島の立場性			
第 6回：発表とディスカッション (4) 小山内薫「講談会感想録」「感想録」			
第 7回：発表とディスカッション (5) 小山内薫「ホセア書雑感」			
第 8回：発表とディスカッション (6) 小山内薫「基督の画家」			
第 9回：発表とディスカッション (7) 小山内薫「露国文豪ドストイエフスキーの臨終」			
第10回：史料の読解とディスカッション (1) 斎藤宗次郎『二荊自叙伝』に見る交友関係			
第11回：史料の読解とディスカッション (2) 斎藤宗次郎『二荊自叙伝』と「生きられた宗教」			
第12回：史料の読解とディスカッション (3) 斎藤宗次郎『聴講五年』に見る生活文化			
第13回：史料の読解とディスカッション (4) 斎藤宗次郎『聴講五年』に描かれた1920年代の東京			
第14回：史料の読解とディスカッション (5) 斎藤宗次郎『聴講五年』中の挿絵と宗教思想			
第15回：授業の総括			

定期試験は実施しない。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

- ・赤江達也『「紙上の教会」と日本近代——無教会キリスト教の歴史社会学』岩波書店、2013
- ・岩野祐介『無教会としての教会 内村鑑三における「個人・信仰共同体・社会」』教文館、2013

学生に対する評価

授業への参加度（20%）、発表（40%）、期末レポート（40%）により総合的に判定する。ただし、発表が2回以上の場合、期末レポートは無しとする。

授業科目名： 日本文化史特殊演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 麻生 将
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：テキストから読み解く無教会主義キリスト教の思想</p> <p>目標：本講義では内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教を事例に、思想家のテキストの読解・分析・考察のスキルを修得する。</p>			
授業の概要			
<p>内村鑑三によって提唱された無教会主義キリスト教は、近代の日本において成立した宗教思想であり、宗教運動であった。また、無教会主義キリスト教は雑誌というメディアによって成立した新しい宗教的コミュニティでもあり、内村自身も「紙上の教会」と呼んでいた。さらに、内村鑑三とその弟子たちのキリスト教思想はナショナリズムや国際情勢との関わりの中で形成されていったことも指摘されている。この授業では、近代の日本社会における政治、経済、文化、社会、メディア、ナショナリズム、更には国際情勢など様々な要素に影響されながら成立してきた無教会主義キリスト教の思想的な特徴について、内村鑑三や彼の弟子たちのテキスト（書籍や雑誌の記事など）を読解し、分析と考察を行い、発表する。その際、内村鑑三と弟子たちの人間関係や、彼らを取り巻く政治的、経済的、社会的、文化的な背景に着目する。</p> <p>テキストはPDFファイルまたはコピーを事前に配布するので、当該授業までに読んでいることを前提にディスカッションと解説を行う。なお、授業計画や内容は変更することもある。</p>			
授業計画			
第1回：はじめに一授業の進め方と無教会主義キリスト教の概要の説明			
第2回：無教会主義キリスト教関係のテキストの解説と発表順の決定			
第3回：発表とディスカッション (1) 内村鑑三不敬事件以前のテキスト			
第4回：発表とディスカッション (2) 内村鑑三不敬事件時のテキスト			
第5回：発表とディスカッション (3) 内村鑑三不敬事件後のテキスト			
第6回：発表とディスカッション (4) 今井館での活動後のテキスト (1900年代)			
第7回：発表とディスカッション (5) 『聖書之研究』前期のテキスト (1910年代～20年代)			
第8回：発表とディスカッション (6) 『聖書之研究』後期のテキスト (1920年代～30年)			
第9回：内村鑑三の弟子と無教会主義キリスト教			
第10回：発表とディスカッション (7) 塚本虎二のテキスト			
第11回：発表とディスカッション (8) 矢内原忠雄のテキスト			
第12回：発表とディスカッション (9) 黒崎幸吉のテキスト			
第13回：発表とディスカッション (10) 藤井武のテキスト			

第14回：発表とディスカッション（11）畔上賢造のテキスト

第15回：授業の総括

定期試験は実施しない。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

- ・赤江達也『「紙上の教会」と日本近代——無教会キリスト教の歴史社会学』岩波書店、2013
- ・岩野祐介『無教会としての教会 内村鑑三における「個人・信仰共同体・社会」』教文館、2013
- ・藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々（上）敗戦の神義論』木鐸社、1977
- ・藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々（下）十五年戦争と無教会二代目』木鐸社、1977

学生に対する評価

授業への参加度（20%）、発表（40%）、期末レポート（40%）により総合的に判定する。ただし、発表が2回以上の場合、期末レポートは無しとする。

授業科目名： 日本芸能史演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中川 桂
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 芸能理解の背景となる江戸期の年中行事に関する文献を講読する。文献読解力と調査の基本を習得し、江戸期の芸能・文化への理解を高める。			
授業の概要 主に『浪花十二月画譜』を講読し、内容を理解するとともに関連する芸能作品に触れる。			
授業計画 第1回：講読文献の概要、作者について 第2回：正月元日 第3回：雑煮、七草、初春狂言 第4回：羽子板、手毬遊び 第5回：節季候、大黒舞／祝福芸 第6回：太神楽、獅子舞／大道芸 第7回：萬歳 第8回：初午、彼岸 第9回：花見文化と歌舞伎・落語 第10回：雛節句／文楽「妹背山婦女庭訓」 第11回：伊勢参宮／上方落語「東の旅」 第12回：灌仏会、初鰯／歌舞伎「魚屋宗五郎」 第13回：住吉踊／寄席の余芸 第14回：俄 第15回：土用鰻 定期試験			
テキスト 春のや織月『浪花十二月画譜』（『浪速叢書』14巻）			
参考書・参考資料等 西山松之助『江戸庶民の四季』吉川弘文館			
学生に対する評価 期末レポート試験（60%）、授業時の発表（40%）			

授業科目名： 日本芸能史演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中川 桂
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 芸能理解の背景となる江戸期の年中行事に関する文献を講読する。文献読解力と調査の基本を習得し、江戸期の芸能・文化への理解を高める。			
授業の概要 主に『浪花十二月画譜』を講読し、内容を理解するとともに関連する芸能作品に触れる。			
授業計画 第1回：前半分（一月～六月）の確認とまとめ 第2回：七月七夕 第3回：精霊迎、盆踊 第4回：施餓鬼、相撲 第5回：節句、月見 第6回：彼岸茶の子／落語「天王寺詣り」 第7回：松茸狩／歌舞伎「紅葉狩」 第8回：鯊釣 第9回：豆名月、暦売 第10回：猪子餅 第11回：誓文払 第12回：金毘羅参詣 第13回：鞆祭 第14回：芝居顔見世 第15回：寒の入、厄払／歌舞伎「三人吉三廓初買」 定期試験			
テキスト 春のや織月『浪花十二月画譜』（『浪速叢書』14巻）			
参考書・参考資料等 西山松之助『江戸庶民の四季』吉川弘文館			
学生に対する評価 期末レポート試験（60%）、授業時の発表（40%）			

授業科目名： 日本史料学演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小森正明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本史料学の一環として、日本史料学講義Ⅰの履修をうけ、古文書の読解を行う。本演習の到達目標は、古文書の読解を通じて、解釈はもとよりその背景としての社会状況などを明らかにし、古文書を活用した歴史像構築ができるスキルを身に着けることである。ここでは主として中世の古文書を対象とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、具体的な史料として中世武家文書を代表する『島津家文書』のうち『歴代亀鑑』所収の古文書の読解を行う。同文書は、鎌倉時代から室町時代の島津家にとって重要な文書を集めて折帖にしたもので、源頼朝下文をはじめとする原本群である。これらの古文書の読み込み作業を通じて、中世武家文書の特色を理解し分析・活用法などを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：中世武家文書『島津家文書』と『歴代亀鑑』 第2回：源頼朝下文ほか 第3回：関東下知状ほか 第4回：将軍家政所下文ほか 第5回：島津道義譲状ほか 第6回：太政官符ほか 第7回：足利直義御判御教書ほか 第8回：足利尊氏下文ほか 第9回：足利義持御内書ほか 第10回：細川勝元書状ほか 第11回：足利義政御内書ほか 第12回：一色藤長副状ほか 第13回：織田信長書状案ほか 第14回：足利義昭御内書ほか 第15回：まとめ</p> <p>定期試験は行わない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

日本歴史学会編『概説 古文書学 古代・中世編』（吉川弘文館、1983年）、佐藤進一著『新版 古文書学入門』（法政大学出版会）、児玉幸多編『くずし字用例辞典』（東京堂出版、2022年）、東京大学史料編纂所編『大日本古文書 家わけ第十六 島津家文書之一』（東京大学、1942年）、東京大学史料編纂所編『東京大学史料編纂所影印叢書1 歴代亀鑑』（八木書店、2007年）

学生に対する評価

レポート(50%)・授業時の発言(30%)、その他の課題等への取り組み(20%)などで判定。

授業科目名： 日本史料学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小森正明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会 及び 高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 日本史料学の一環として、日本史料学講義Ⅱの履修をうけ、古記録（日記）の読解を行う。 本演習の到達目標は、古記録の読解を通じて、解釈はもとよりその背景としての社会状況などを明らかにし、古記録を活用した歴史像構築ができるスキルを身に着けることである。			
授業の概要 本講義では、具体的な史料として室町時代を代表する古記録『看聞日記』をとりあげ、本記の読解を行う。『看聞日記』は、伏見宮第三代 貞成親王（1372-1456）の日記で、自筆本44巻が残されており、日記の期間は応永23年（1416）～文安5年（1448）の長きに及ぶ。同一の日記の記事を読み込む作業を通じて、日記の特色を理解し分析・活用法などを身に付ける。			
授業計画 第1回：『看聞日記』 応永23年正月条 第2回：『看聞日記』 応永23年2月条 第3回：『看聞日記』 応永23年3月条 第4回：『看聞日記』 応永23年4月条 第5回：『看聞日記』 応永23年5月条 第6回：『看聞日記』 応永23年6月条 第7回：『看聞日記』 応永23年7月条 第8回：『看聞日記』 応永23年8月条 第9回：『看聞日記』 応永23年9月条 第10回：『看聞日記』 応永23年10月条 第11回：『看聞日記』 応永23年11月条 第12回：『看聞日記』 応永23年12月条 第13回：『看聞日記』 応永24年正月条 第14回：『看聞日記』 応永24年2月条 第15回：まとめ 定期試験は行わない。			
テキスト 授業時に資料を配布する。			
参考書・参考資料等 横井清著『室町時代の一皇族の生涯 『看聞日記』の世界』（講談社学術文庫、2002年）、藪部			

寿樹著『『看聞日記』とその時代』(勉誠社、2024年)、宮内庁書陵部編『図書寮叢刊 看聞日記 一～七』(明治書院、2004年～2014年)

学生に対する評価

レポート(50%)・授業時の発言(30%)、その他の課題等への取り組み(20%)などで判定。